

2015年6月16日

各位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

通期業績予想修正に関するお知らせ

当社は、2014年12月26日に公表した2015年6月期(2014年7月1日～2015年6月30日)の業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 2015年6月期(2014年7月1日～2015年6月30日)業績予想数値の修正

	事業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想の下限値 (A1)	60	△255	△242	△242	△56.66
前回発表予想の上限値 (A2)	1,060	744	757	757	177.25
今回修正予想 (B)	60	△281	△265	△266	△62.35
前回発表予想の下限値を基準とした 増減額 (B-A1)	0	△26	△23	△24	
増減率 ((B-A1)/A1)	1.6%	—	—	—	
《参考》前期実績(2014年6月期)	0	△483	△480	△376	△101.45

(注)

- 増減額・増減率については、レンジ表示から特定数値への予想値変更にあたって、前回発表予想の下限値(A1)を基準とした数値のみを記載しています。
当社が業績予想数値をレンジで開示しているのは、一般的な業態の企業におけるレンジ開示と異なり、「新規提携パートナーを獲得できる」「獲得できない」という異なる前提に基づく、相互に連続性のない2つの数値を表すものです。
この業績予想開示方針への誤解を避けるべく、「新たな提携が獲得できる前提の予想(前回発表予想の上限値(A2))と「提携が獲得できないとする今回修正予想(B)」で算出した増減額および増減率は表示しておりません。
- 1株あたり当期純利益/損失につきましては、業績予想公表時(2014年8月12日)には2014年7月末時点の発行済株式数に基づいて算出しておりましたが、上記計数は現在予想される期中平均株式数により算出し直した数値を記載しております。
- 増減額および増減率は単位未満を切り捨てる前の数値で算出しているため、表中の数値を用いた算出結果と必ずしも一致しません。

2. 修正の理由

当社は、2015年6月期の業績予想については、前回公表値をレンジ形式で開示しておりましたが、このたび新たに特定数値による予想値を算出しました。

前回公表値においては、提携活動の不確実性を考慮し、新規提携パートナーを獲得して受取る可能性のある事業収益をレンジで表示しておりましたが、現在の提携活動状況から、2015年6月期中には既存のCBS9106提携のほか新たな契約の締結に至る可能性がなくなったと判断したため、新予想値はその下限(CBS9106提携に基づく収益のみ)である60百万円に修正します。

なお、損益については、前回公表値の下限値をやや下回っております。これは主に、CBP501臨床試験データの精査に基づく新発見の検証業務等にかかる費用が増加したことによるものです。

以上

【ご参考】

《CBP501提携獲得活動の経緯および現状について》

当社は、開発中の抗癌剤候補化合物CBP501にかかる武田薬品工業株式会社との共同事業化契約を2010年6月に解消して以来、提携パートナーとなる製薬企業等との連携模索(パートナーリング活動)を実施しつつ、単独でCBP501臨床開発を進め、悪性胸膜中皮腫と非小細胞肺癌(扁平上皮癌を除く)を対象とする臨床第2相試験を終えております。

このうち、提携先製薬企業等から見た魅力に重要な意味を持つ非小細胞肺癌に対する臨床第2相試験の結果は、主要評価項目「無増悪生存期間」(PFS)は達成しなかったものの、被験者のうち投与前の白血球数の少ない群(n=96、投与群・対照群ほぼ同数)を抽出したサブグループ解析の結果、重要な副次的評価項目である「全生存期間」(OS)において、CBP501の顕著な効果が示唆されるものでした。

当社は、当該サブグループ解析結果をもとに、過去約2年にわたり、製薬企業等提携パートナー候補企業とのディスカッションを進めてまいりました。その結果、少数ではありますが、詳細なデューデリジェンス調査を含む提携交渉を続けているパートナー候補製薬企業等が存在します。

また、これとは別に、CBP501作用メカニズムに関して最近獲得した新たな知見(後述)を用いて、2015年から新たな提携パートナー獲得活動を展開しています。こちらについても、守秘義務契約下でのディスカッションを継続しているパートナー候補製薬企業等が複数あります。

当社は引き続き、これら候補企業との交渉に注力し、1日も早い提携成立を目指しております。

しかしながら、2015年6月期中に新規契約締結に至る可能性は本日現在においてなくなったと判断せざるを得ず、本適時開示に至ったものです。

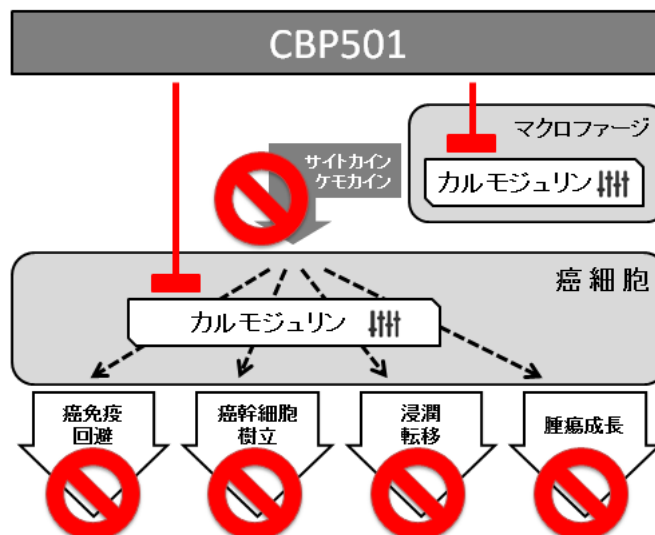
《CBP501の新知見について》

最近になって当社は、上記の試験データの詳細な解析と追加的研究の結果、上記のようなサブグループ解析結果が生じる原因を科学的に矛盾なく説明し得る仮説の樹立と、それを支持するデータの獲得に成功しました。

臨床試験サブグループ解析結果から構築した仮説をもとに実施した基礎研究の過程で、CBP501は、既に発見されていたカルモジュリンへの作用を経由して、癌細胞のみならず、「癌微小環境」「癌免疫」「癌幹細胞」などに関わる広範な作用を有することがわかっています。

当社基礎研究部門は、現在も引き続きその検証作業を全力で遂行しており、その成果は今後、論文や学会発表等で公表してまいります。

(CBP501新知見・概念図)



《新知見を踏まえた今後の事業展開について》

当社は、CBP501に関して、2007年3月に武田薬品工業株式会社と共同事業化契約を締結しておりましたが、2010年6月に同契約を解消し、以来現在に至るまで5年余、提携パートナーを有しない状態でCBP501臨床開発をはじめとする事業活動を継続しつつ、新たな提携パートナーの獲得を最重要課題としてまいりました。

この方針については今後も変更することなく、開発の進捗如何にかかわらず、CBP501の価値のみならず当社全体の事業価値を最大化する提携パートナーの獲得を、今後も強く推進してまいります。

一方、CBP501の開発を進捗させる面では、新薬承認申請のための大規模な試験が必要となる臨床第3相試験に先立ち、前述した《CBP501の新知見》を踏まえて対象を絞った小規模の追加試験（一般に「フェーズ2b試験」と呼ばれます）を自社で遂行することによって、CBP501の開発魅力にかかる説得力（製薬企業等にとっての開発品導入魅力）を高め、当社の最重要課題である提携パートナーの獲得実現に大きく寄与すると考えられることから、当社はかねてから、提携パートナー獲得活動の推進と並行して、CBP501フェーズ2b試験の実施の可能性を検討しております。

また、新規抗癌剤候補化合物の探索・創出につきましては、正常細胞と癌細胞の細胞分裂過程の違いに着目した当社独自のスクリーニングによる従来の手法での新規化合物探索に加え、CBP501に見出された「癌免疫促進」「癌幹細胞阻害」「浸潤・転移抑制」「腫瘍成長抑制」などの作用を増強した「次世代CBP」の創出も追求してまいります。

以上